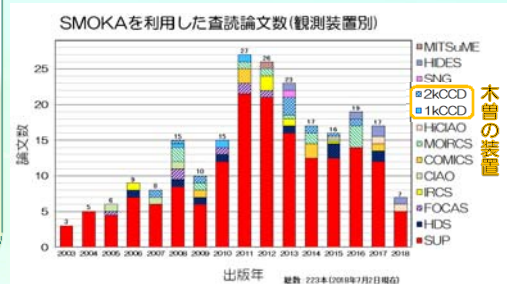


古澤 順子、本間 英智、市川 伸一 (国立天文台) と 他SMOKAグループ

木曾シュミットシンポジウム 2018  
@上松町ひのきの里総合文化センター  
2018-07-10, 11

**SMOKA** <https://smoka.nao.ac.jp>  
(Subaru-Mitaka-Okayama-Kiso-Archive system)

SMOKAは、すばる望遠鏡、岡山天体物理観測所 (現 すばる望遠鏡/岡山分室) 188cm望遠鏡、東京大学木曾観測所 105cm シュミット望遠鏡、東京工業大学 MITSuME望遠鏡、東広島天文台 150cm かなた望遠鏡の、観測者占有期間が終了した公開観測データをインターネットを介して配布するアーカイブシステムである。研究・教育目的であれば、誰でもデータを取得することが可能である。  
国立天文台 天文データセンター (NAOJ/ADC) が開発・運用を行っている。



観測所/望遠鏡	フレーム数	容量[TB]	占有期間	期間(西暦)
木曾	1,396,004	9.0	1年	1998-
すばる	7,440,687	113.1	18ヶ月	1999-
岡山	578,753	5.3	2年	1991-
MITSuME	10,330,104	20.8	1年	2007-
東広島	561,904	4.7	18ヶ月	2010-
計	20,307,452	152.9		

## 今後の開発計画(～1年)

位置較正済データの公開

・木曾 / KWFC

乾板データの公開

・木曾 / デジタル化された乾板データの公開

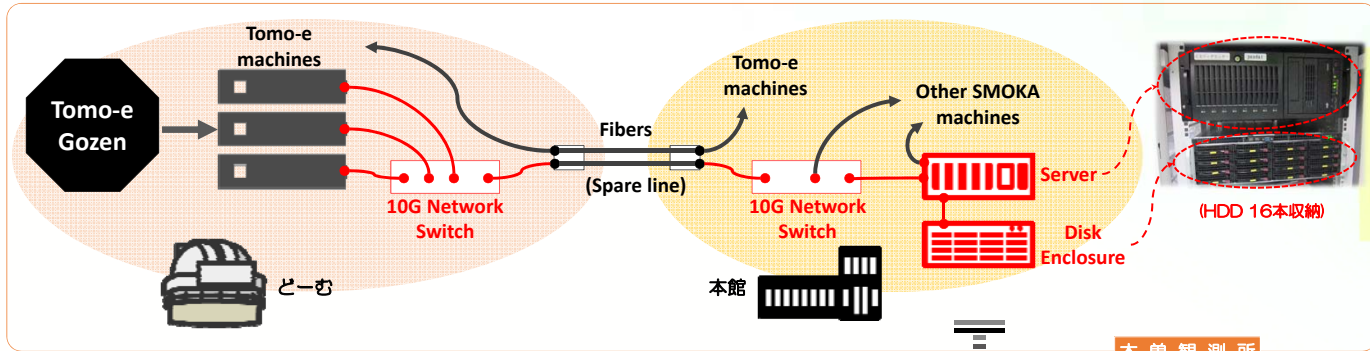
新装置のデータ公開

・岡山 / HIDES-F / MuSCAT  
・すばる / CHARIS

## 生データをアーカイブ/公開する意義

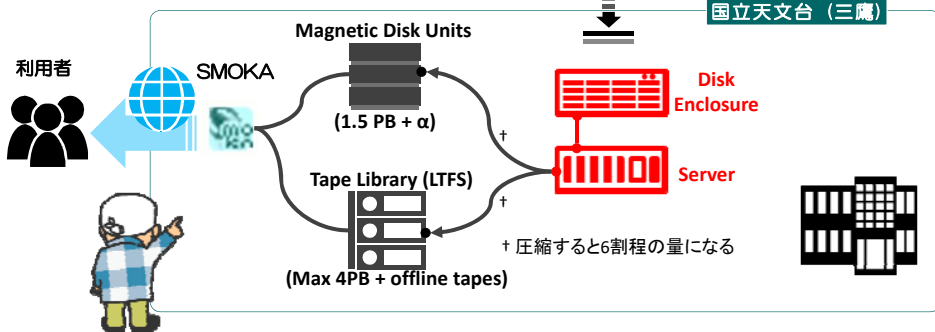
1. Tomo-e Gozen の観測データに含まれる情報量は非常に多いことから、観測者の意図とは異なる研究に(標準パイプラインとは異なった処理を施したい場合等も含めて)利用できる可能性がある
2. 画期的な成果であるほど 成果の再検証が求められる
3. Tomo-e Gozen の観測データは量が多いため、生データを長期保存することは容易ではなく、SMOKAが唯一の生データ保管場所となるかもしれない

Tomo-e Gozen の生データが 国立天文台に移送されてSMOKAで公開されるまでの流れ



「赤」はTomo-e Gozen の生データ公開に向けてSMOKAが設置した機器  
(必要な機器は全て設置済★)

- 2017-12-20 ★機器設置①  
【どーむ】+【本館】
- 2018-01-29 ★機器設置②  
【本館】
- 2018-06-14 ↓  
2018-06-15 ◎データ移送試験



実際にどのような種類のデータが、どれ位の量、どの程度の頻度で、移送 / 公開できるのか、また公開時期等についても未定

※本件は、木曾観測所 Tomo-e Gozen グループ の全面的なサポートにより進められております。